

な か て は ら

第58号

発行
仲手原自治会

コロナ禍での自治会活動

自治会長 斉藤眞幾男

新型コロナウイルスの感染拡大も高止まりが続いています。仲手原自治会としては、感染防御のためにオンラインの活用などの工夫を行い、会議やイベントなどの開催をすすめています。

毎月開催している「仲手原自治会定例会」を、11月からリモート参加と会場（自治会館）参加の併用で実施することとしました。19名が会場に、16名がリモートで参加され、約1時間にわたり行政や自治会からの情報提供や意見交換等をおこないました。来場される方が半数程度になり、従来に比べ大幅に密を回避することができるとなりました。



定例 Web 会議の PC 画面

令和2年度 自治会防災訓練 10.24

「10月24日(土)午前9時、マグニチュード8.1、最大震度7の大地震が発生した」という想定のもとに、災害時安否確認訓練を行いました。例年は、消火器の使用法、消火栓を使った放水訓練、起震車体験、被災者救助などの総合的な防災訓練を行っていましたが、新型コロナウイルス感染防止対策の為、今年度は住民の方々および登録されている要援護者の安否を確認する訓練のみとしました。

訓練は、住民の皆さんが発災を機に自宅の前に出て組長さんに家族の安否を伝えることから始まり、各組長さんは組内の住民の状況を



災害対策本部

班長さんに伝え、班長さんは班内の集計情報を災害対策本部である自治会館に伝えるという手順で行われました。午前9時30分過ぎ頃から、班長さんが自治会館に設けられた受付に班内の状況を報告するようになり、10時30分までにはすべての班からの報告を受け付けました。

無線機を使用した情報伝達訓練も行われました。本局が二丁目、二丁目それぞれに配備された無線機を呼び出し、移動局は町内を移動しながら周辺の状況を本部に報告する訓練で、あわせて電波の到達可能な範囲を確認しました。



無線機（半二重）

防災キャラバン



11月7日(土)、港北区役所主催の防災キャラバンが自治会館で開催されました。

今回は、自治会館に集まった24名の受講者に加え、あらかじめ受

講者登録した16名の方々がリモートで受講しました。

防災士

鷺山龍太郎

先生による

「自ら考える防災（地震編）」という講義です。



講義中の鷺山龍太郎先生

・住民が普段からどのように防災意識を持てば良いか。家具の転倒防止や消火器など、家の中の防災についての留意点(自助)。
・自治会として初期消火や人命救助の為に機器をどのように整備しておくべきか。災害発生時に住民や自治会はどのように組織的な活動ができるか(共助)。

・避難・救護はどのように行われるか(公助)。
など、具体的な心構えを約2時間にわたってお話いただきました。

鷺山先生は10月に行われた自治会防災訓練も視察されていて、仲手原の地勢や街の状況について非常に詳しく、町内の地図などを含めた資料を準備して説明してくださいました。

なかてはら読者のページ



今、コロナ禍に想うこと...

新型コロナウイルス

感染拡大中の生活

本年2月に横浜港に入港したダイヤモンド・プリンセス号の乗客、乗船員の中に新型コロナウイルス感染者が居るとの報道に接した時は限定的なものであろうと思つていました。しかし、その後は恰も燎原の火の如く拡がりをみせていますし、有名人もこれが原因でお亡くなりになり、これは侮れないぞと思うに至りました。移動、集会の自粛も要請されました。老人故どうしても出掛けなければならぬ用などありませんが、それでも大好きなライブを聴きに行く事つまりは大好きなミュージシャンに会うことが出来ず、些が寂しかったですが有料配信を楽しみました。現今の災厄は必ず沈静化に向かうものと思いますが、いずれ時を経て形を変えてまたしても暴れそうですね。人類は誕生の時から良き友人ではないが病とは付き合ってきたから。人間の歴史は病の猖獗期、潜伏期の間歌の上を進んでいるように見えるのです。

一丁目7班 平山 清二

ニューノーマル時代の大学

COVID-19により世界が一変した中、私は美大へ入学しました。しかし皆さんも存知のような受験や大学生活ではなく、一般受験はマスク着用、後期受験も実技(デッサン)無しの書類審査になり、さらに緊急事態宣言により授業も延期、入学式も無くなりました。大学について諸々の説明会も無いので仕組みも分からず、サークルや部活動も何があり、何をしているのかよくわかりません。

後期に入り通学が始まりましたが、共通学科はオンラインのままで連絡方法が授業担当の先生によって様々で大変です。

これからも耐えるべき場面があるでしょうが新社会様式としてより良くしていきたいらなと思つていきます。



一丁目5班 田村 百花

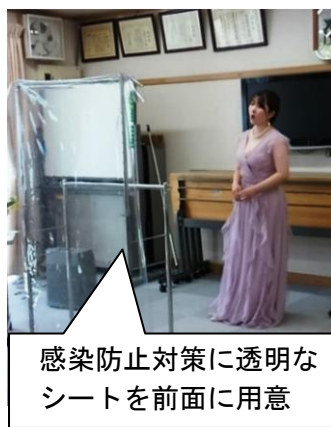
コロナ禍での家庭学習

経験したことのない長い春休み。午前中ぐらいい勉強しようと「お家時間割」を作ったのですが、子供たちが集中するには、家は誘惑が多すぎました。グズグズ言う子供たちをとにかく椅子に座らせて、時には叱りつけたりしながら私と妻で質問に答えたりして過ごしました。午後はマンガやYouTube、ゲームなどで自由に楽しく遊んで過ごし、夕方5時になると私も仕事を終わらせて子供たちと外へ。バスケットの3人にとっては練習や試合が出来ないことが一番ストレスだったと思います。週5日、毎日2時間のトレーニングを続けました。ご近所には騒がしく迷惑をお掛けしたかもしれませぬ。「こんな時だからこそ頑張ろう」そんな言葉ばかり掛けていた気がします。何をどうしてあげればいいのか分からず、不安や苛立ちをかかえながらでしたが子供と共有した長い春休みは、今思えば貴重な宝物のような体験となりました。

一丁目8班 玉木 洋平

コロナ感染に注意しながら元気に活動！ことぶき会

ことぶき会は、年配の方々の憩いの場として、毎月自治会館に大勢の方々が集まります。閉じこもりがちになりそうな高齢の方々の心と体の健康を損なわないために早々と6月から再開しています。開催時には、規定の人数制限を守るため前半と後半に人数を半分に分け、検温・手の消毒・部屋の換気など、万全な対策をして活動しています。8月には、ソプラノ歌手の浅沼美穂さんをお招きして心が癒される歌を鑑賞しました。



感染防止対策に透明なシートを前面に用意

敬老祝い

今年も9月の敬老の日の前に75 80 85 90 歳以上の方々186人にお菓子を、77 88 99 歳の方々57人にお祝い金を差し上げました。コロナ禍の騒動に負けず、どうぞこれからもお元気でお過ごしください。

育メン奮闘記

世の中の子育て事情の急速な変化の中で3人の子どもの子育てに携わってこられたお父さんの心情は、



イクメンとは、子育てに積極的に関与する男性を指す俗語。イクメンにやや遅れて200年代から急速に普及。(出典ウィキペディア) 我

が家の3人の子供達は、2002・2009・2012年生まれのため、確かに該当する期間に生まれ、子育てをしていると言える。その間の育児に対する世の中の変化と私の思考・志向の変化を考えてみた。

そう言えば

第一子の時は

公園に一緒に行くと

付き添いは母親が多かった

記憶がある。見回していると変な

目で見られるのも嫌で、遊具で遊

ばせながら携帯で音楽を聞いていた

ものだ。第二子の時は、幸運にも

仕事で横浜支社。幼稚園に送り

仕事に行けた。チビ君との朝のひ

と時は大変だったが、とても楽しい

時間だ。この頃、幼稚園の送りは

母親が目立つ。土日の公園は父親

比率が半分以上の記憶がある。

しかし外食時にチビ君に食べさせて

いると、近くの席のおばあさま

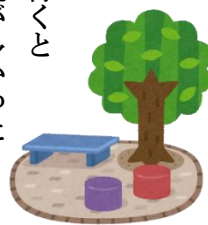
方から「パパ偉いわね」と言われる

時代だった。第三子の時代にな

ると東京通勤に戻ったが、時差通

勤が許される時代に変化。週に何

日かチビ子と幼稚園に行く時間は、



至福だった。幼稚園へ送る時間の

お喋りが実に楽しかった。第一子

の幼稚園時代に、母親代わりに迎

えに行く時は嫌だった。「誘拐犯

か？」的な疑いを掛けられるので

はないかと不安で、わざわざ「パ

パ迎えに来たよ」など言ったりし

ていた記憶がある。今では会社の

若手社員君達は、育児当番は当た

り前。時差通勤、中抜け、など珍

しくない。この様に世の中は大き

く変化したが、実は私の中に変化

は無い。以前と違い、会社に説明

が不要になった事くらいだ。

という事で執筆を依

頼されながら失礼だが、

私にとってイクメンと

いう言葉は存在しない

のである。限られた時

間の中、子供達との時

間を大切にしたい、と今も前も、

この先も思考・志向は変わらない

のだと思う。最近の若い男性の皆

さんの育児参加率の向上は、とて

も良い事だし、もはやイクメンと

いう言葉は不要なのだろうと捉え

ている。



一丁目9班 谷本宗慶

日常から緩やかな見守り 災害時要援護者支援の取り組み



仲手原自治会では地震などの大

災害が発生したとき、自身では避

難することが困難な方々を地域ぐ

るみで手助けをする要援護者支援

の取り組み、「ささえあえ」活動

を進めています。区役所から名簿

の提供を受け、一人暮らし高齢者

など災害時の避難等に支援が必要

な方々を年一度は自治会長と民生

委員が訪問します。そしてどのよ

うな支援がよいかを個別に伺って

きましたが、今年はコロナ予防か

ら電話での確認となりました。

こうして教えていただいた避難

誘導時に必要な情報について、9

月には各組長さんに①単独歩行困

難、②杖など補助具で単独歩行可

能、③見守りのみ、としたかたち

で伝えられました。これからも、

さらに多くの方々に支えられなが

ら、いざという時の安否確認体制

の強化が進められます。

います。ボランティア活動に参加した生徒には、学校から参加証明書が授与されます。



道路清掃のようす



仲手原自治会の法人会員である武相学園では、約10年前から生徒有志によるボランティア活動を行っています。仲手原自治会防災訓練への参加、仲手原ふれあい祭りでの吹奏楽部演奏、地元小学生を対象としたバレーボール教室開催、

11月 港北区防災キャラバン(7日) 健民祭(中止)

自治会だより

※ 行事予定は変更される可能性があります。お知らせします。

10月 秋のふれあいまつり・

さんま祭り(中止)

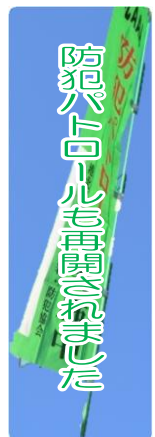
この防犯パトロールは藤井 仁前自治会長が提唱し、平成18年1月より始まった歴史ある行事です。当初は月1回行われていました。第1回目は港北警察署からもご協力を頂き、6名の警察官が参加されました。現在は毎月2回、第2火曜日、第4金曜日に行われています。

く再開されました。

新型コロナウイルスの影響で、長い間自治会防犯パトロールは中止されておりましたが、9月よりようやく再開されました。



パトロールへ出発



20年3月ごろには、このシステムのセキュリティが脆弱性があることが指摘されましたが、同年4月末に数々の問題点が是正

このシステムは、会議主催者がアカウントIDを購入し、予め会議参加者宛てにミーティングIDおよびパスワードを通知(招待状)することで運用されるものです。アカウント購入費が廉価なこと等から世界的に人気もあるようです。

Web会議 サービス zoom スム

2月 節分豆まき大会(中止)
3月 卒業・進級祝い

子供会だより

3月 新旧役員交代懇親会(未定)

3月 新班長・組長業務説明会(未定)

1月 港北駅伝大会(中止)

1月 自治会親睦バス旅行(中止)

1月 街かど医学塾(19日)

1月 仲手原寄席(13日)

12月 「なてはら」第58号発行

自治会館年末大掃除(18日)

伊東美奈子・植木幹造・押尾泰典・芳賀宏江・三宅博久・宮田純子

今回の「なてはら」では、そのような中でも定例会のリモート化など、さまざまな工夫を行っている様子を記事としました。また、読者の皆さんのコロナ禍での日常生活の1コマを紹介させていただきました。いかがでしたでしょうか。

編集後記

③ 空港・駅・新幹線内・喫茶店等の暗号化非対応のフリーWi-Fiを直に使用しない

② 機密情報を極力喋らない

① ミーティングIDをむやみに公開しない

れ、リリースされたZoom 5.0以降は強固なセキュリティ対策がとられるようになりました。それでも他のWeb会議サービスも含めて次のことに留意すべきです。